東京クモゼミでの八幡さんの発表（一部談話会例会での発表）　（編）池田博明

■2001 年 12 月 2 日　談話会例会にて発表　（４）八幡明彦　　折り紙蜘蛛の世界における発生と進化：「不切正方形一枚折り」という紙に切れ目を入れない方法でクモを折り出す。複雑折り（前川淳）の技法が洗練されてきた。折り方の基本には「折り鶴系列」「2 艘舟系列」がある。目黒俊幸（2001）の折り紙の分類学にならって各種のクモを折り，分類してみた。＜折り紙を前にする八幡さん，折り紙ゴミグモと折り紙ワスレナグモ＞

■2002 年 1 月 14 日　千葉県市川市における加藤輝代子宅での東京クモゼミに参加

■2002 年 2 月 3 日▽八幡報告；高岡諒ほか,2001.タランチュラ効傷の２例．中毒研究，14:247-250．コバルトブルー *Haplopelma lividum* に指先をかまれ，一時間後に受診．しびれ感．非ステロイド系消炎鎮痛剤と抗生物質の投与．アナフィラシキーも無い．腹部体毛による傷害もありうる．その毛が眼や呼吸器に入ると危険．[コメント]愛好者でウサンバラ・オレンジにかまれて歩けないほど痛んだ例もある．モルヒネでも痛みが治まらなかったという（八幡）．

▽八幡報告；高岡諒・田伏久之，2001．タランチュラ，セアカゴケグモ．救急医学,25 巻 2 号，へるす出版．内容はほぼ前著と同様．[コメント]痛みを抑えるには冷やすこと（八幡）．

■2002 年 3 月 6 日▽八幡明彦，2002．子育てヒヒツチグモ *Hysterocrates* sp.の共同性．　アフリカ大陸産バブーンタランチュラの大形の一属である．触肢と I 脚及び I 脚と II 脚の基節を摩擦して威嚇音を出す．地中性傾向が強い．他のコソダテヒヒツチグモ属は乾燥地に棲むのに対し，多湿系環境に棲み，水没に強い．カメルーン，コンゴ，サントメなどに 21 種が分布している．2000 年の夏に購入したメスが 10 月 9 日に飼育容器内で産卵，8 週目に孵化，その一週間後に脱皮．親が地上への出口を開けた数日後に，親の採った餌（コオロギ）を子グモ同士が奪い合う．先に食いついた個体が後から来る個体を脚ではねのけたりする．親が子を捕食したり，子同士が他個体を捕食することはないが，捕獲を補助する行動もない．

■2002 年 4 月 7 日▽八幡明彦・梅林力，2002．ガラス板に張りつくタランチュラの脚先・および他のクモの脚先．先月の「どうぶつ奇想天外」の実験で使用したクモの（脱皮殻の）脚先の走査電子顕微鏡写真が梅林力によって撮影された．タランチュラはガラス板に張りつくのに脚先のごく一部（末端毛束）を使っている．この毛束の側面に広がるパッド状の部分は樹状性のタランチュラでは使われているかも．SEM でタランチュラ成体・幼体・ネコハエトリ亜成体雌・ナカムラオニグモ亜成体雌，イオウイロハシリグモ幼体の脚先を撮影した．毛１本当りが支える重さはネコハエトリでは 0.025mg，タランチュラ成体では 2.5mg.

■2002 年 6 月 2 日▽八幡報告；TBS どうぶつ奇想天外の実験映像.「スパイダーマン」特集で放映されな

かった，タランチュラの壁のぼりを見る．八幡明彦の知人の説「常緑広葉樹の葉の表面を歩くための適応が末端毛束である」．実際にゴマダラカミキリの附節にも毛束がある．
▽八幡明彦，2002．韓国クモ図鑑のクモの韓国名について．まずコガネグモ科から韓国名を解説した．
▽八幡明彦, 2002. ボルネオ蜘蛛紀行. 4 月 26 日から 5 月 2 日までサバ州を中心にボルネオを観光した．既にウェッブ・ページに公開している．アシダカグモ，キヌアミグモ，マラバルジョロウグモモドキ，ミナミノアカイソウロウグモ，オオジョロウグモ，ヒメグモの一種，樹上性のタランチュラ，ハエトリグモ２種，コガネグモの１種，ジャノメグモ，ズナガドヨウグモ，ヤリグモの一種などなど．芳香を出すヤスデも見た．
■2002 年 9 月 8 日▽八幡明彦，2002．千葉県野田市（利根運河）三ケ尾のクモ．2001 年 9 月～2002 年 9 月の調査で 27 科 141 種が観察された．ムツトゲイセキグモ（千葉県最北の記録），キタヤハズハエトリ（千葉県新記録），オガタオニグモ（千葉県新記録）など注目種があった．ビジョオニグモの出現傾向からクモのソースハビタットとしては湿地に隣接する明るい林縁が有効と思われた．環境指標種としての有効性を考察した．新海栄一（1998）の環境指数を求めると 160.4 となり，里山型環境としての評価は「悪化」であった．千葉県の里山は東京都及び神奈川県の里山とは成立過程が違うことと，里山環境を積極的に評価する観点からは，新海の評価は検討を要するのではないか．
▽八幡明彦，2002．加治木クモ・フェスタ 2002 報告．日本蜘蛛学会大会開催期間中に同時に行われたクモ・フェスタの準備・実行委員であった八幡の記録．フェスタ前日（8 月 22 日），展示会場設定．23 日夕刻より親子クモ観察会．24 日シンポジウム「くも好き文化とくも嫌い文化」．レセプションで「クモ合戦実演　加治木町対蜘蛛学会」．熊本県のくも合戦文化を子どもに伝承する会の藤本宏さん，クモ合戦優勝者の谷口信彦さんも会場に駆けつけた．25 日，斎藤慎一郎さんの「ナガコガネは闘うか」実験．
▽八幡明彦，2002．コガネグモ「谷口個体群」の研究計画．2001 年のクモ合戦優勝者である出水市の谷口信彦氏から聞いた話をもとに，谷口個体群で強いクモが選抜されてくる仕組みを調べる．仮説１：気候・餌・造網足場条件の良いフィールドに周辺地域から採集した幼体を放すことで多数の個体が観察できる場所である．仮説２：ここでは秋冬に多くの餌がある．その結果，春先にはクモが他の場所よりも大きくなっている．仮説３：高密度のため，生長に伴い造網場所をめぐる闘争が起こり，強い個体が選抜される．仮説を検証するために谷口氏本人への月１回の電話調査，4 月と 6 月には八幡が現地調査（植生，造網位置，生長サイズ，餌メニュー，行動，密度など）を行う．
▽谷川明男・八幡明彦，2002．日本最大のクモ．遊糸次号予定.谷川報告．日本最大のクモはオオジョロウグモ，徘徊性ではアシダカグモとされてきた．しかし，実際に大きさ感に影響を与えるレッグ・スパンや体重も加味した大きさ指数を考案して，比較すると，大きさ指数の最大種は徘徊性では奄美大島産オキナワアオグロ，造網性では鳩間島産オオジョロウグモであった．
■2002 年 10 月 6 日▽「ドーナツの体積が積分で判ることを中学で知って,数学に興味を持った」(八幡)．
▽八幡明彦，2002．オオトリノフンダマシとトリノフンダマシには雑種ができる？広島県神石郡神石町で，お盆にオオトリノフンダマシ雄の全身を震わせる求愛行動が撮影された．そして別の場所でトリフン♀に求愛しているオオトリフン雌を採集した．［コメント］アカイロトリノフンダマシの求愛も同様に全身を震わす．東京都あきるの市の広徳寺で卵のうがオオトリフンとトリフンの中間型で，雌親は模様も中間型で外雌器が奇形（左右対称でない）だった例があった（新海明）．
■2002 年 11 月 10 日▽八幡明彦,2002．オガタオニグモの生態.ビデオ映像.2001 年秋に理科大の理窓公

園にて発見. スギの葉先に10ｃｍ～15ｃｍの垂直の呼糸円網でリトリートに生息(昼にも網が見られる). カラオニグモに似た腹部で赤いクモという印象. 撹乱地のスギ林で見つかる. オスは未記載. 希少種かもしれない.

■2003 年 1 月 12 日▽八幡明彦, 2003. ALIEN　SECIES を規制する法律が検討されている. クモについて例示はゴケグモが書かれているが, 生物多様性の観点だけでなく, 日本では価値観の異なる人の健康への観点が入っている.

▽八幡明彦, 2003. 黄金郷プロジェクト. 加治木町ではクモ保全が積極的には行なわれてはいない. 町で保全区を作ったほうがいいと提案している. その裏づけとなるデータを収集する.「クモ合戦」での優勝者である谷口信彦氏のデータを併せて利用する. 良い場所とは, 冬でもアメリカミズアブが多発生する「養鶏場」の付近で,「壁」になっている環境, 枯れ草が作る「籠の中」にいる. 午前中に「日照のある」ところ, 幼体の「造網に有利な」場所. 成長段階でどの要素がはたらいているかを異なった環境の比較で調べる. 体長を調査したところ, 九州内の薩南と加治木, 九州と伊勢原（神奈川県）の間で有意差があった. 良さにはスケールの違いがある. 地理的, 地形的, 立地的なスケールで「良さ」を把握する. コガネグモはもともとは河川敷で繁殖・進化した種ではないか. 6 月の第３日曜が「クモ合戦」.［コメント］地区レベルではクモはむしろ広く薄く生息しているのではないか. 養鶏場といっても関東と九州では異なるだろうし（宮下直). 養鶏場から畑へ巻かれる堆肥も含めての環境まで考える（八幡). 養鶏場の規模や形態も問題となるということですね（宮下). 草刈りの影響はあるのか（新海明). 草刈りの影響はあるし, 台風の影響も大きい. 谷口氏の最終野外飼育場は樹木中心であった（八幡). 最終野外飼育場には幼体を放しても翌年はあまり大きな個体が出ない. 良い場所では地温が高い（八幡).

■2003 年 2 月 2 日▽八幡明彦, 2003.タランチュラは月の満ち欠けを感じているのか. 室温 26℃, ほぼ主に 12L12D だが不規則という条件で飼育している. 新月の夜に産卵することが多い印象があった. 実際にはどうだろうか. 21 例をまとめると, 43%は新月だったが, 産卵タイミングは必ずしも新月ではなかった.

■2003 年 4 月 6 日　発言のみ

■2003 年 6 月 1 日▽八幡明彦, 2003. クモ合戦直前のコガネグモの成長. 体長を測定してきたが, 体長だけでは十分な考察ができないので, 背甲幅・前２脚太さ・第１脚腿節長も測定した. 5 月 16 日南薩で体長 25.6mm 背甲幅 8.4mm の亜成体, 5 月 24 日千葉県館山の亜成体体長 12.5mm の個体を記録. 南薩で 5 月 17 日に野外で成体 24.7mm 背甲幅 9.5mm を記録. 5 月 24 日千葉県館山の亜成体は 12.5mm と小さかった. 一時的な餌の多さを反映して腹厚・腹幅・体長はバラつく. 腹幅／背甲幅（太り指数）とみなしてはどうか. 累積的な成長度は背甲幅・脚太さ・脚長さに現れるという仮説を検討してみたい. 加治木のクモ合戦は今年は 6 月 15 日. [コメント]里山の管理という観点では面白いが, とにかく大型個体がいればいいといのは不自然である. 本来のコガネグモに適した自然を考慮してそれを復元する方向も大切であろう（宮下直). 野外のコガネグモ飼育場は「牧場」の様相である. ここにはミズアブは多いが産卵地としては適していないらしい（八幡). ゼミ当日, 八幡が持参したクモは鹿児島産のコガネグモ（5 月 17 日成熟), 徳之島の日本最大のクモ・オオハシリグモ Dolomedes orion （体長 4cm).

■2003 年 7 月 5 日▽八幡明彦, 2003. コガネグモくも合戦参戦記. 別途ウェッブで報告.

■2003 年 7 月 13 日　談話会観察採集会さいたま緑の博物館にて, 参加者にコガネグモのクモ合戦を実演する。

■2003 年 9 月 7 日　八幡明彦，2003．談話会合宿・北海道上士幌町合宿クモ目録．通信および KISHIDAIA 予定．八幡報告．8 月 20 日から 22 日まで行われた談話会合宿にて，観察記録されたクモをとりあえず 87 種を記録．標本で確認が必要な種がある．［コメント］イソウロウグモはいなかった（新海明）．タイリクサラグモの網に下面からザトウムシが侵入していた（八幡）．

▽八幡明彦，2003．「トリビアの泉」（フジテレビ）のカフェイン網．コガネグモの網は典型的な円網である．「クモはコーヒーを飲むとでたらめな巣を作る」番組のビデオを見る．吉田真氏「カフェインが中枢神経系に作用して麻痺する」と解説．こしきを作りながら縦糸を増やしていくのは普通の行動だが，足場糸と横糸が張られない．後でカフェインから覚めると正常な円網を張ったという解説があった．

［コメント］アニマル・プラネット（ケーブル TV）でもドラッグ網をやっていた．Witt の論文の検証で終わっていた（井出和美）．こしき作りで終わっている．縦糸のバランスが悪い．足場糸と横糸が張られていない．途中で打ち切った網．造網中に第１脚で粘糸を確認する（新海明）．飼育下では足場糸まで張って止める例はあるので，この実験には不備がある（八幡）．

▽八幡明彦，2003．コガネグモのけんか　強さを決めるのは何か．口伝の信憑性を問う．背甲幅が鹿児島産は大きいのが特徴．館山産は飼育すれば体長は大きくなるが，背甲幅は追いつかない．勝ち抜き戦なので，太った個体（腹幅が大）が勝つ傾向がある．勝ち抜き数を統計量に複数の体格変数を多変量解析すると，はっきり出てこない．要因が独立変数でないためであろう．主成分分析を行い，重回帰分析をしたが，体格変数から要因の検出はできなかった．口伝によれば「持久力」が関係するという．試合データをプロットして分析．腹幅の要因が大きい．勝ち方の違いはどうだろうか．糸切り技で勝った場合は腹幅が大．直接対決の場合は噛み・巻き勝ちでは背甲幅の大きい方が優位に勝つ．ただし，噛み・巻きのサンプル数が小さい．勝ち続く傾向はあるのか．勝ち経験のある個体が勝ったのは 16／21 だった．体格的に強い経験者が勝っているだけかもしれない．分析したところ，勝ち癖の効果は小さいことが分った．勝負には，体格変数だけではなく，行動変数（闘争性・持久力・技の洗練度）も影響するし，環境変数（気温など）も影響する可能性がある．

■2004 年 1 月 11 日▽八幡明彦，コガネグモの楽園（地形と密生環境の関連を探る）．コガネグモの生息環境を個体レベル，地域レベルなどで考慮できるが，景観の重要性はデータ化されていない．関東でのコガネグモの減少は地域レベル・藪レベルの変化と思われた．調査は３ヶ所（鹿児島県２箇所，千葉県１箇所）．５月には成体・亜成体・幼体が混生．個体群レベルで比較して，川が蛇行している元氾濫原で「藪」が重要であることが分ってきた．藪のタイプをどう記述するかが課題．今後は，千葉県館山市で調査をしていく．地図フリーソフト「カシミール」を利用すると，例えばキシノウエトタテグモの分布をマッピングして，人為的に標高 9m 以下を水没させて見て，クモが台地の縁にそって分布している（それ以下の地域には出現しない）ことが判明する．［コメント］餌量だけでなく餌サイズの比較も必要では（新海明）．とても小さい餌は評価していない（八幡）．コガネグモの消失の主因には開発と農薬使用の影響があるのではないか（新海）．農薬を散布する下にクモを置いてみたが，死ななかったので，急性毒

性では効いていないと思う（八幡）．ナガコガネグモのデータを調べてみては（宮下直）．

■2004 年 2 月 8 日▽八幡明彦，2004．2003 年北海道上士幌町合宿報告．谷川・初芝・松田のチェックをしてもらった．イワマヒメグモ，ムネグロヒメグモ（←セアカヒメグモ），ヤマトコノハグモ（←カレハヒメグモ），キンヨウグモは誤認かも．チシマカニグモ（←シギカニグモ）の他，標本で確認をするなど取り扱い注意を要する種がある．目録に載せないまでも記述しておく．［コメント］目録に名前を記録したオクチサラグモは大阪府と北海道で記録されていた（谷川）．池田所蔵のカレハヒメグモの一種は確認が必要（池田）．

▽八幡明彦，2004．低地のキシノウエトタテグモ分布．鈴木成生（1992）により山手線内で「きわめて少ない」とされた東京東部地域は，台地上で起伏がある武蔵国の領域だが，開発により減少したと考察される．縄文時代に海の底だった東京東部低地や埼玉県東部低地（武蔵国の大地を下り荒川から下総国）はどうか．経験上の印象では，関東のおいては丘陵地に多く，台地縁では集中する群落がある．低地にはほとんど分布していない．植木の移植による人為分布がありうる（笹岡文雄より）．キシノウエは移入種なのか，開発による分断された種なのか．準絶滅危惧種だし．荒川・台東・墨田・足立・葛飾区の低地の寺社調査の結果は，各地に数は少なく，小規模だが生息．環境的には生息していそうだがいない所もあった．低地では分布がまだらで都市化による生息場所の消滅で回復できないダメージをこうむったと考察できた．［コメント］低地にはいないと思ったが意外に生息していて人為分布だけでは説明できない気がする（新海明）．房総南部で寺院のドウダンツツジの植え込みの下に局地分布の例などから移植の可能性を考察したことがある（新海）．江東区に生息すれば移入種傾向が強い（安藤昭久）．指標種としては保全の観点からすると有用（加藤輝代子）．里山的環境で保全したい種を指定する（八幡）．

■2004 年 3 月 7 日▽八幡明彦，2004．中・近世の絵画に登場した蜘蛛等の虫類画（仏涅槃図を中心に）．江戸時代の虫類画以前に釈迦の命日（2 月 15 日）前後に涅槃図を絵解きしていた．この涅槃図には釈迦の死を悼んで集まってきた動物たちが描かれている．この図に蜘蛛が描かれている例が数点あった．それを紹介する．公開日が限られている，写真を撮影するのに許可が必要である等，研究上の困難がある．（2004 年 11 月の談話会例会にて発表）

■2004 年 4 月 4 日▽八幡明彦，2004．流山市の環境別クモ相の調査比較について．毎回の調査によりデータを取って，予備的に階層的クラスター分析を試みた．［コメント］ordination の際に主成分分析などがある．成体と幼体が同じ重みづけになってしまう危険性を回避すること，レアな種に引きずられるのでレアな種ははずすこと（宮下直）．宮下教科書のフィッシャーの多様度指数 Dγ は式が誤植．生物群により空間スケールが異なることが考慮されていない（宮下）．小さな環境を見るには草花とクモという方針が出た調査地域がある（八幡）．

■2004 年 5 月 2 日▽八幡明彦，2004．チュウガタコガネグモとコガネグモでの幼体の識別は可能か．腹部背面にある前黄帯が黒い条で分断されればチュウガタコガネグモ，前黄帯の後縁に一対の小さな突起があればコガネグモ．ただし，6mm に達しない幼体では判然としないため，チュウガタ幼体とみなして飼育した個体がコガネグモになってしまった例もあった．[コメント]コガネグモは海のクモ，チュウガタは山のクモと称されるが，コガネグモはゆったり流下する川沿いに生息するクモである（八幡）．栃木県にはコガネグモは生息するがチュウガタは稀．単純に暖帯のクモ，温帯のクモというわけではない．チュウガタには北に行けない何かがあるのではないか（宮下直）．丹沢調査の結果（金目川流域，中津川流域）も報告した（八幡）．

■2004 年 9 月 5 日▽八幡明彦，2004．環境とクモ．日本蜘蛛学会豊橋大会シンポジウム．あまり提起した問題点や議論が掘り下げられなかった．単に異なる動物群での環境指標生物を紹介した程度で終わってしまった．[コメント]クモのレッドデータリストが，日本蜘蛛学会自然保護委員会で取り上げられていたが，クモで選定された種は環境を表わす種類ではないところに問題がある．どうしても稀産種が指定される．単に感覚で指定されているのでは科学的ではない．保全したい環境に住むクモを指定するという八幡の主張には一理ある（谷川明男）．目的がなくてリストを作成しても意味がないはずである．何のためにリストを作成するのか．アクションにつながらないと意味がない．国レベルの判断に意見を具申するならもっと明確な基準が必要であるし，その基準を公開して討論していくべき（八幡）．

八幡明彦，トリノフナダマシ類の異種間の交尾の可能性について．八幡報告．2004 年 8 月 13-14 間の両日夜間，広島県神石町でメスと同居していたオスを採取して同定した．トリフン 5 頭のオスはトリフンに同居，オオトリのオス 2 頭のうち１頭だけトリフンのメス網にいた．別種の網へのオスの導入の実験はしていない．［コメント］種間交雑では関連する二種間の片方だけにフェロモン効果があるという例がある（宮下直）．トリフンやアカイロではメスの方が受け入れ態勢になったところへオスが来る（新海明・安藤昭久）．

▽八幡明彦，2004．アシダカグモへの関心；クモ嫌いを利用する．クモ嫌悪への対処の三つの方法として，「クモ駆除」「クモ防除」「嫌悪症治療」がある．クモ嫌悪の人にも調査に参加してもらうために『アシダカ・ギネスに挑戦』のページを開設した．コアシダカグモ（Sinopoda）属は 2002 年以降，分類に問題があるので調査が必要である．

■2004 年 10 月 10 日▽梅谷献二，2004．クモを食べる習俗．IN　『虫を食べる文化誌』（創森社，320ｐ），223-229．池田・八幡・加藤輝報告．クモを食べる世界の習俗についての記述がある．記述が豊富で面白く読める．ルブロンオオツチグモの写真を八幡氏が提供する他，情報を提供している．加藤輝代子氏に対する謝辞もある．［コメント］表紙にもカンボジアのクモ売りの少女の写真が出ていて，虫を食べるという本なのにクモが主役級の扱いを受けている（池田）．梅谷さん本人はクモは嫌いだとか．しかし，虫関係のグッズやフィギュア，食料に関する資料は 50 年来収集していた（加藤輝代子）．記述に「トリクイグモがオオツチグモに改正された」とあるが改正というほどのことはしていないと思う．タランチュラの和名について，「農業共済新聞」に連載中はゴライアストリクイグモとしていたクモが，本ではルブロンオオツチグモとなってしまったのが残念だ．学名がテラホッサ・ルブロンディなのだが，実はこの種小名，仏人ブロン氏なのに命名者が誤ってル・ブロンとしてしまったのだ．私見では和名ならダイダラボッチオオツチグモがいいと思う．また写真の説明に体重 10ｇとあるが秤の針を見れば分る通り 100g の間違い．本文で「食用グモ」というのが出てくるが，これはヨーロッパ人がタイランド・エディブルと名づけたことから来たもので，現在タイ政府は食用を禁じている．もう食べる場面も撮影できないし市場でも売っていない．八幡が食べたのはアフリカのクモで刺激毛を持たない種類です．ゴライアスには刺激毛がある．カンボジアではポルポト政権のとき，食料事情が悪化し，クモ食いの風習が広まってしまった（八幡）．

▽八幡明彦，2004．ナショナル・ジオグラフィック誌と外国のテレビ局が作成していた日本のクモ合戦の紹介作品『サムライ・スパイダーズ』が完成しました．こんなに早く完成したのは前代未聞とか．[コメント]最初にメールで問い合わせが来たとき, 八幡氏を紹介して良かった. 多様な観点で描かれたのは, 八幡氏の適切なアドヴァイスのおかげであろう（池田）．

■2004 年 11 月 7 日▽八幡報告；「名探偵コナン」《クモ殺人事件》，八幡報告．タイトル不詳．クモに関する考証がよくできていた．被害者の教授はクモ学者だがクロゴケグモに耳を噛まれて死亡する．事故か，殺人か．ゴケグモの毒はヒトを死亡させるほど強くないことから，コナンは謎を解く．電話器に仕掛けられた画鋲で耳を刺した結果のショック死だった．犯人は殺害するつもりは無かったのだ．[コメント]コナンがクモを検索すると画面に現われるのはタランチュラのメキシカン・ブロンド，これはみるかし姫のホームページを参照したなと思わされた（八幡）．11 月下旬，日本テレビ系列で映画『スパイダーマン』放映にあわせて特別番組を組む予定（八幡）．

▽八幡報告；関根幹夫，2004．ジョロウグモの虫かみつき行動は理にかなっている．ジョロウグモが最初に虫のどの部位にかみつくかを調査した．32 頭のジョロウグモの網の下面にフタホシコオロギを投げ込んで記録したところ，コオロギは下向きになるためか，羽や肢にかみついた例 10，腹部 9 に対して頭部 4，胸部 8 だった．頭部や胸部にかみついたときはその後，糸を巻く行動に移ったが，腹部では 9 例中 1 例，羽や肢では 10 例中 4 例だった．

▽八幡明彦，1995．「毒グモ」騒動の謎．某誌投稿．ゴケグモに対する対応には日本人の反移民・反外国人感情が露呈している．古代にも天皇族は先住民を賤称するとき，土蜘蛛よばわりしたのだった．この件に関する記述は各地の風土記に見られる．

▽八幡報告；須藤寿恵，1991．土蜘蛛と呼ばれた民のもの悲しい痕跡を辿る．AERA,8 月 27 日号．大分県・佐賀県に相当する『肥前国風土記』には女性の土蜘蛛が数多く出て来る．中でも大山田女（おほやまだめ）・狭山田女（さやまだめ）は荒ぶる神を鎮めた賢女ぶりが「賢女（さかしめ）の郡（こほり）」，後に訛って佐嘉（さか）の郡となったと佐賀の地名の一つの起原をなしている．[コメント]みるかし姫のホームページにはみるかしのさとを訪れた記録が掲載されている（八幡）

■談話会例会にて発表（2004 年 11 月 21 日）講演（９）八幡明彦「中・近世の絵画に登場する蜘蛛等の虫類画・仏涅槃図を中心に」2 月か 3 月の涅槃会で図の絵解きがされる。経典には釈迦の逝去を嫌われている虫まで悲しむとあり、涅槃図の仏教儀式における意義は大きかった。虫類の描写について、文献・現物（34 件）・電話聞き取り調査を行った。蜘蛛の描かれた図は大変に少ない。鎌倉中期に最古のナガコガネグモの図像があった。中野玄三氏の動物図像研究を、虫類の詳細から補完する。12 例の涅槃図につき、登場した動物の種類でクラスター分析では５型に分けられた。クラスターの分類のキーはラクダ登場、日本在来の動物が増える等。虫入り率の最高は奈良の一例の 48%であった。江戸の動物写生画の多くは大名等の所有だったが、庶民が見ていた涅槃図の図像は重要ではないか。涅槃図にこれほど動物が多く入っているのは日本だけであり，日本人の動物観を反映している。

■2004 年 12 月 5 日▽八幡明彦，2004．インターネットで見つけたクモのサイト．韓国の Kim 氏が造った生態園（アラクノピア）は基礎科学を体験する施設（JooPil 蜘蛛博物館，蜘蛛研究所，生物学実習室，

飼育室など）である．最近まで輸入が禁止されていたタランチュラの販売もしている．中国の上海科技館での「蜘蛛展」（アメリカでの展覧会を輸入）．クモの生態や欠点があげてある．Blackledge の wasp に対する防衛という三次元の網の理論の紹介展示がある．

■2005 年 3 月 5 日▽八幡明彦，2005．キシノウエトタテグモの分布。

■2005 年 4 月 3 日▽八幡明彦，2005．キシノウエトタテグモの生息調査の方法．キシノウエトタテグモの歴史を調べるのではなく，絶滅危惧種として適当なのか，どうかを調べる．移動性が小さいクモだから環境との関連が言える．東京都東部と千葉県 253 箇所を予備調査した結果，生息率（発見地点数／調査地点数）と緑被率は相関が明快でないし，墨田区（緑被率は低いが生息率は高い）は逆だった．大きめの個体郡を集中調査しつつ，各地点とその周辺の環境を考慮する必要がある．巣穴の有無（調査時間あたり確認個数など），環境（樹木の多少，透水地率，急斜面概面積）．回帰からの残渣は外部環境や過去の履歴の寄与分であろう．［コメント］縄文海進の後に侵入した地点に限って調査したらどうか．分散能力の低い種だし（加藤輝代子）．古くは海底だった低地の環境を無視するのは RDB の観点からは問題がある（八幡）．地史的な時間をかけて分布を拡大してきたという見方の方が理解できるのでは（安藤昭久）．人為的な圧力が低い場所でないと困難（八幡）．筑波山神社の裏や川崎市の生田緑地にはトタテグモが３種が混生している．相模原市の河岸段丘には生息していない（谷川明男）．野田地域は里山環境なのに予想より生息が低い．初めから偶然が作用してパッチ状に分布していると言われても考慮できない（八幡）．ヒトが開発して都会にしたい環境に住むクモだと言えれば絶滅危惧だと言えるのでは．ヒトと競合しているのだから（谷川）．本来，このクモが好む環境は沖積平野と洪積台地の間では（安藤）．山間部・増穂町にはいない（加藤）．相模川にそって斜面林が続いている場所がある（谷川）．

■2005 年 5 月 1 日▽八幡明彦, 2005. ナショナル･ジオグラフィックの映画の表彰式 Show　Real　Asia ２でシンガポールへ渡航した．「Samurai Spiders」の監督 Kalina Holden は「Kiss of Death」（キングコブラを扱う部族のドキュメンタリー）でベスト監督賞を受賞した．

▽八幡明彦，2005．キシノウエトタテグモの絶滅調査．GIS を活用したデータを利用して環境の評価をする．[コメント]キシノウエトタテグモは緑地環境というよりも里山環境に適応しているため，環境評価に難しい点があるのではないか．単に緑地面積だけが重要なのではなく，フラクタルな形態が重要だと言う認識が最近，注目されてきている（宮下直）．

■2005 年 6 月 5 日▽八幡明彦，2005．調査地とフラクタル．鎌倉などのキシノウエトタテグモを調査するに当って土地利用図から緑地面積などをフラクタル解析して求める．［コメント］調査方法が詳細すぎるとみんなで出来ない懸念がある（新海明）．後で調査項目を付け加えることはできないので，初めから項目を粗く設定してはならない（宮下直）．

■2005 年 7 月 3 日▽八幡報告；David George Gordon，Uncover Tarantula （立体モデル大図鑑・タランチュラのからだ）．Silver Dolphin （講談社）．「こどもライブラリー」の一巻．来年の発売になる予定．外骨格・毒のしくみ・循環系・消化系・神経系・生殖系・糸のしくみ・筋系などに分かれている．翻訳中．価格は 2800 円の予定．［コメント］面白く素晴らしい内容で，発売が楽しみ（全員）．既に翻訳では「恐竜」と「人体」が出版されている（八幡）．Samurai Spiders は 8 月の放映（八幡）．

▽八幡明彦，2005．カラスハエトリによるヤマシロオニグモの捕食．Kishidaia 予定．2005 年 6 月 27 日昼にリトリートの網のヤマシロ幼体（体長 9.8mm）をカラスハエトリ成体（体長 11.5mm）が背面からかみつき，捕食した．体重比にすると３倍のクモを取った．

■2005 年 9 月 4 日▽新海明・八幡明彦，2005．クモ生息環境の類型化．保全の観点から環境との関連づけをしたクモ・データベースを作成していきたい．例えばイソコモリは自然植生の残る砂浜とか．種ごとに記述するのがよいが，コガネグモなどは複雑で分りにくい．とりあえず種ごとに記述していくという試みが大切．どう環境を区分するかが問題なので，チェックリストが必要，ドイツのビオトープの類型化やイギリスの自然植生の類型が使えないか検討している．多くの人の目でやってもらうためには誰にでもできるやり方が必要だ．談話会の観察会や合宿で使えるようなことを考慮したい．［コメント］微環境を問題にしたら研究者の一生のテーマとなる．いったい誰のためにやるのか（安藤昭久）．絶滅危惧種とからんでクモから見た環境という観点には社会的な要請がある（新海明）．環境の類型化は図で示さないと客観的でないし，分りにくいのではないか（安藤）．観察会などではこんな種類が出現するはずという指名手配方式もいいのではないか（谷川明男）．調査地ごとに環境類型で区分し，調査地ごとにファウナを確認していく（新海）．
▽八幡明彦，2005．GIS を活用してクモと環境の関係を探る．日本蜘蛛学会大会でのシンポジウムでの講演内容を修正．キシノウエトタテグモの絶滅要因をモデル化した．提案は今後の発表に向けて準備中．
■2005 年 12 月 11 日▽八幡報告；デビッド・ジョージ・ゴードン著・八幡明彦訳，2005．タランチュラのからだ．講談社．12 月に日本語版が発売されました．小学生中級以上としているが，大人にとってもよく出来ている．在庫僅少とか．［コメント］八幡氏に翻訳苦労話を談話会通信に書いてもらう（池田）．
▽八幡明彦，2005．都市マションを徘徊するキシノウエトタテグモ雄．八幡報告．東京荒川区のマンション G 棟で毎年雄が出現するので個体数をマーキング等によって調査し 100 余頭のオスが生息．オスの移動距離は小さかった．最大でも 160m程度．植栽によって侵入したものだろうか．［コメント］東大で調査したときに医学部前のサツキに集中していたし，清澄でもやはりサツキのところだったという結果から，植栽で広がったと推測した（新海）．９月ころ自宅マンションでオスを２頭見たことがある（加藤）．
■2006 年 4 月 2 日▽八幡明彦, 2006. GIS を活用してクモと環境の関係をさぐる．１部は談話会発表用．第１部はキシノウエトタテグモの環境選好性のデータを当てはめる．土地利用図（1974 年と 1996 年）を活用する．神奈川県（鎌倉・本郷台・能見台）で調査計画を立てた．人によって発見する能力が異なるので能力係数をあらかじめ測定しておく．第２部では場所ごとにカウントしたデータと適地の環境データがあれば，比較により適地を検証できる．環境地図があれば個体数推定も可能になる．つまり，未調査区の個体数も推測できる．[コメント] 数の増減で絶滅危惧を議論するならば数が数えられる種で数えられるうちに調べなければならない．稀産種は環境指標種に使うことは難しいし，保護の対策も困難である（八幡）．野生生物の保全調査で注目する生物として，クモの重要性は高まってきているが，専門家の基準の提示が遅れている（加藤）．
■2006 年 5 月 7 日▽八幡明彦，2006．キシノウエトタテの生息と標高の効果．先日の鎌倉の調査から森林地では標高 40m高から 100m高へいくにつれて生息が低下する．キシノウエの分布は縄文海進の影響で決められた生息適地を中心として高標高地と低標高地へ進出していくと考察できる．全国の分布地も一見不規則に見えるが，標高で塗り分けして大スケールでみると，地形的適地から発見されていて矛盾はない．[コメント]各地のＤＮＡ調査が可能なのでそれを検証するとよい（宮下）．同じような環境なのにいるところといないところがある．その理由が大スケールできちんと考察される例は大切（宮下）．ジグモやワスレナグモは分散能力が高いのに対し，キシノウエは分散能力が低いので分布が理解しやすい（加藤輝代子）．キシノウエトタテはキノコの生息する森林には進出しにくい（「クモタケ仮説」）のでは

ないか（八幡）．ＵＳＡのカネコトタテグモ類では形態変化がないのにＤＮＡはかなり離れているという結果が出ているので，キシノウエの遺伝子も変異している可能性がある（谷川）．Haupt は南西諸島のトタテグモを亜種に分類している（谷川明男）．

■2006 年 6 月 4 日▽八幡明彦，2006．腹上死するコガネグモのオス．飼育して，交尾中に死んだコガネグモのオスが２例あった．この例では交尾時間がやや長かった．メスにかまれたわけでもない．メスから逃げるオスもいる．[コメント]ナガマルコガネグモ以外にオスが交尾中に死亡することが確認された例は少ない（谷川）．

▽八幡明彦，2006．キシノウエ神奈川調査の中間報告．のべ１１日間で１２１箇所につき，生息密度または在不在データを取った．仮説として，キシノウエ個体群の分布は不連続である等．斜面と緑地の縁が適地の条件になりそうだ．古い低層住宅は斜面林周縁からの拡散効果を助けている．主な生息地域は大スケール地形の分析から関東平野・濃尾平野・大阪平野などである．［コメント］キシノウエは「森に入れないクモ」（宮下）という見方があった．カネコトタテは山のクモ（新海）．

■2006 年 9 月 3 日▽八幡明彦，2006．絶滅リスク評価ワーキンググループの計画．イソコモリグモについて，徳本氏の密度ランク（４段階）により判定し，環境省海辺調査から県別自然海岸区分別延長，自然海岸延長の経年変化などのデータが入手できる．「イソコモリ調査　2006-7」成果を来年 2007 年 8 月日本蜘蛛学会大会に報告する．［コメント］行程表を明確化するほうがよい（新海）．

▽八幡明彦，2006．環境別クモ相調査の試み．千葉県野津田市「江川三ケ尾・二ツ塚」地区で調査するつもり．種別の環境解析を行う．アクセスが不便だが，「三ケ尾」は市の保全地区に指定された．［コメント］市民の環境意識はずっと高まっているのに，クモで環境にとって重要な種は何かという課題に答えられないのは残念（八幡）．

▽八幡明彦，2006．キシノウエトタテグモの絶滅危惧度評価；クモの生息適地分析からのアプローチの現状．連続生息（非生息）面積の広がりをとりこんだモデルも検討する必要がある．鎌倉市の情報をもとにして算出すると，生息適地面積が 54 ブロック（500m四方）から 25 ブロックに減少した為，20 年で 54%減少，10 年平均で 32%減少と推定．東京東部でも 10 年で同様に減少している．サツキは土壌消毒までするので苗の移植で移入は無い．北部九州にはキシノウエはいなかった．キノボリトタテグモやワスレナグモはいた．［コメント］個体数の多い関東で生息地の解析や減少の事実が把握できれば十分説得力がある（宮下）．

■2007 年 4 月 8 日▽八幡明彦，2007．GIS 地図によるイソコモリグモ生息域推定．現時点で最も簡便に利用できる電子化された環境データを使って，どこまでイソコモリ生息状況が説明できるか．それを活用して減少傾向の量的推定を試みる．海岸調査，土地利用集計，植生図が既存の電子データがある．５年間の自然砂浜の減少率から１０年後の減少率を推定すると 18%となる．金野晋の調査地点を特定できた場合，現地を再調査．モデル（石川県モデル，石川＋鳥取・島根モデル）の検証を行う．徳本のレベル１～レベル３の検証．［コメント］鈴木・鶴崎（2007）がモデルを作るのに利用した砂粒の大きさは実測する他ないし，浜面積も手間がかかる．一般砂浜の長さなどの電子データで利用しやすいデータで効果の高いものが使えないかを検討中（八幡）．アーク GIS のソフトは互換性がない（八幡）．

■2007 年 5 月 6 日▽八幡明彦，2007．イソコモリグモ調査計画．石川県のデータから，自然砂浜のなかでも周辺に建物が少なく，森の面積が多いところに生息するというモデルを適用する．ＧＰＳデータから生息する確率の高い新潟県・青森県の砂浜を実地調査する計画をたてた．

［コメント］金野のデータは野帳から起こさないといけないそうなので時間がかかりそう（八幡）.

■2007 年 7 月 1 日▽八幡明彦，2007．クモ合戦 2007 年．千葉産のクモ１個体，鹿児島産２個体で八幡秋山沙和さん３勝９点で合戦の部最優秀で優勝旗をゲット．

▽八幡明彦, 2007．イソコモリグモ生息地の減少推定レポート，second　draft．石川県・新潟県・青森県・山形県・島根県・鳥取県などの実地調査のデータをもとにモデルを検討した．徳本基本モデルによる予測の適合率は新潟 56%，青森 44%，山形 60%．ロジスティック重回帰モデルで新たな説明式を探索する．［コメント］誤差の推定ができるはず（宮下）.

■2007 年 9 月 2 日▽八幡明彦, 2007. イソコモリグモの生息適地分析とそれを用いた生息域の減少推定．徳本（2005）から, 生息に重要な要件は自然状態の砂浜･防砂林等による保護･過度の人為圧がないこと．ある場所の環境の生息適性度から生息密度を推定できる．生息確率モデルを作る．全国では「最近 10 年で 20%以上減少」かどうかで，準絶滅危惧か絶滅危惧Ⅱ類かの定量基準の区分となる．今回の 81 データを用いた解析から，本州のみのイソコモリグモでは 28%の減少，全国では 17%減少と推定．［コメント］9 月 17 日に昆虫学会大会の公開シンポジウムがある（八幡）．岡崎城の石垣のキシノウエが市の天然記念物に指定された.

▽八幡報告；八幡秋山沙和，2007．クモ好き少女の夏休み．小学校４年生．時刻によるズグロオニグモの堤防出現数，区間ごとのクモ個体数，網を張るのにかかった時間（分）．生息数の推測や環境を考察する．感想文もクモ．工作もクモ.

■2007 年 10 月 7 日　発言のみ

■2007 年 12 月 2 日▽八幡明彦，2007．イソコモリグモ保全の提言に向けて．他の海浜生物の研究団体と工学系との協力をしていく．9 月 17 日，日本昆虫学会の公開シンポジウム「海浜と海浜性昆虫の現状と保全」に参加．シンポジストは，開発法子（自然保護協会の海岸植物群落調査），郷右近勝夫（海浜性のハチ相），佐藤綾（ハンミョウ），宮下・八幡・鶴崎（イソコモリ）．ＮＡＣＳ＿Ｊのデータはネット上で公開されている．宇多高明『海岸侵食の実態と解決策』（山海堂）が参考になった．人為的な開発の誤りが海岸侵食をもたらしているという観点を強調．砂浜の安定度が重要．［コメント］自然砂浜の姿を知る世代が保全を訴える（八幡）.

▽八幡明彦，2007．西宮市のキシノウエトタテグモの生息．八幡報告．神戸女学院大学の大家さんと生息適地を調査．関西で神社仏閣にしかキシノウエはいないというのは誤解．［コメント］佐賀平野には生息が無いのは地史的条件か（八幡）．腐植土が発達するとフタが作りにくくなるのではないか．標高が低いところ，つまり照葉樹林帯では腐植土が発達しない（安藤昭久）.

■2008 年 1 月 6 日　発言のみ

■（池田欠席のため記録がないが）円網のらせん糸の造網行動の幾何学的解析を発表している。

■2014 年 2 月 1 日▽八幡報告；ウタツホラヒメグモの新聞報道．　田束山で発見され記載されたウタツホラヒメグモの記事が三陸新報（1 月 8 日版・10 日版）、朝日新聞宮城版（12 月 30 日）に報道された。